

研究主題

学ぶ楽しさが実感できる学習をめざして

～学び合う姿を求めて～

1. 研究主題設定の理由

本校ではこれまで3年間「学ぶ楽しさが実感できる学習」をめざして研究を進めてきた。これは、学習指導要領の基本的なねらいである「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や豊かな人間性、健康体力など『生きる力』を育成すること」を受け、『生きる力』に結びつくものとして「学ぶ楽しさが実感できる学習」＝「『わかる、できる』ようになる授業」と本校では捉えてきた。日々の実践の中で「学ぶ楽しさが実感できる学習」に迫るために課題解決的な学習パターンの定着を図りながら、子どもたち一人一人を大切にしたい支援を行うことで、徐々にではあるが集中して学習できる子どもが増え、次につながる意欲も芽生え、子どもたちに学ぶ楽しさが定着し始めてきた。また、学習ルールを根気強く指導することで個が生きる授業づくりを行うことができるようになってきた。

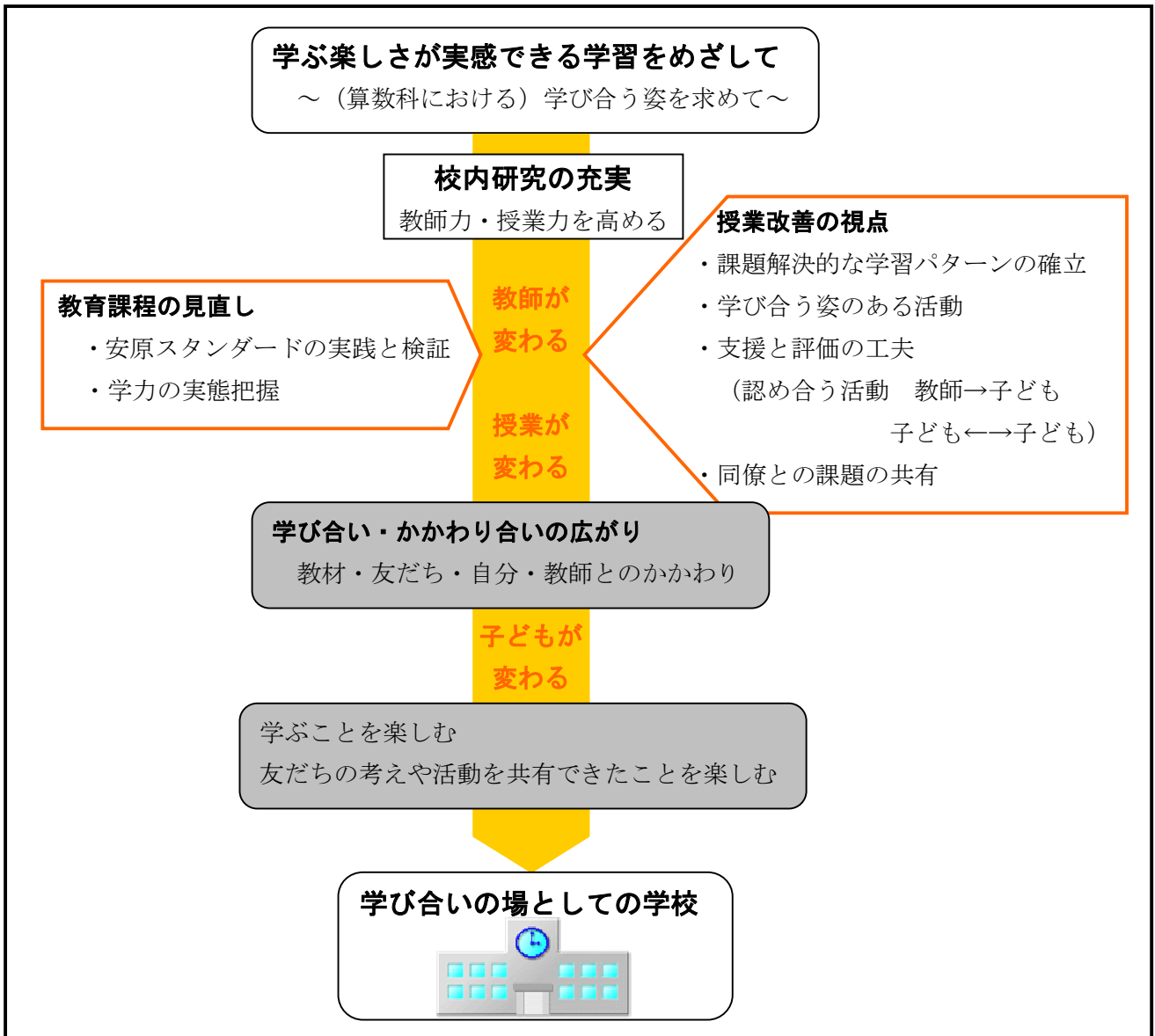
しかしながら、学年・クラス・個に応じて学ぶ姿勢が身に付いてきた一方で、以下のような課題も出てきた。

- ・ 見通しを持った課題解決的な学習の流れを子どもたち自身でも進められるように安原学習モデルを設定・確立する必要があるのではないか。
- ・ 受動的な学習課題ではなく、「？」から子ども同士の思考を練り上げる過程を経た学習課題設定の工夫が必要ではないか。
- ・ 学び方のスキルアップを積み上げてきているか。
- ・ 細やかな且つ多様な支援や評価方法を工夫してきたか。
- ・ 学力調査の結果、特に算数の落ち込みが激しい。

そこで、本年度は学校教育目標「豊かな心と確かな学力のある子～かかわり合いを通して～」の育成を受け、「進んで学習し合う子」を学習指導のめざす児童像として設定し、教育活動を進めていく中でこの教育目標を具現化するために、「学ぶ楽しさが実感できる学習をめざして」を研究主題、「学び合う姿を求めて」を副題として算数科を中心に学校研究を進めていくこととした。そのことは、上記の研究課題の改善や教育課程の見直しを行うことにより、教師力・授業力を高めていくことであり、子どもたちにとって「学び合いの場としての学校」を創り、学校生活全般において学び合い・かかわり合いを広げる中で学ぶことを楽しんだり、友だちの考えや活動を共有できたことを楽しんだりできる子どもを育てることになると捉えた。

また、教師のかかわりが学校生活すべてにおける大きな要因をしめると考え、学習部会ばかりではなく特活部会、生活部会と連携し、学校生活全般においてかかわり合いを通して「豊かな心と確かな学力のある子」の育成をめざしていきたい。

2. 研究構造図



3. 実践研究の概要

(1) 学習におけるめざす児童像

算数科の指導におけるめざす児童像

- ・自ら課題を見つけ、見通しを持ち、筋道を立てて考えていく子
- ・友だちとの学び合いやかかわり合いの中で、算数の学習の楽しさや数理的な処理の良さに気づき、課題を解決していく子
- ・算数で身につけた知識や考え方を実生活の中でも生かすことのできる子

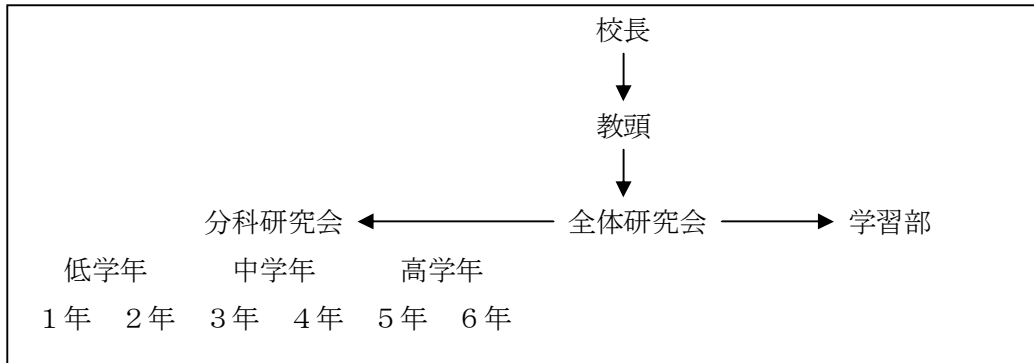
(2) 研究の仮説

問題解決的な学習を通して、子ども一人一人の実態に即したきめ細やかな支援・学び合いやかかわり合いのある授業展開を行えば、基礎・基本の確実な定着が図れ、確かな学力を身につけさせることができる

(3) 授業改善の視点

- ・問題解決的な学習を確実に進めるための学び方の指導法の研究←課題解決的な学習パターンの確立
- ・教材の系統性の把握と基礎・基本の洗い出し←安原スタンダードの実践
- ・学習内容の定着を図るための学習ルールの研究開発←学習の中でめざす学び合う姿の位置づけ
- ・個に応じ個を伸ばす支援と評価の研究←子どもが生きる支援と評価
- ・学ぶ楽しさを育てる指導・評価方法の研究
- ・算数科における児童の情意面や学力にかかわる実態把握

(4) 研究組織と活動内容



全体研究会

- 研究内容に関する共通理解
- 授業研究…全体研授業の事前研・整理会等

分科研

- 学習部で提案された内容を授業を通して実践する。
- 級外は、それぞれ低・中・高の分科研に所属することとする。

(5) 研究計画

- ・一人が1回以上研究授業を行う。
- ・全体研究授業は原則として年3回（低・中・高で各一人）、あとは分科研授業とする。
- ・全体研は事前研を行い、研究の重点に関する質疑応答を行う。
提案授業の事前研に関しては、授業案の形式、授業の視点の持ち方、事後整理会等の持ち方について少し時間をかけて念査していく。
- ・外部講師の要請は、分科研や個人に任せる。
- ・研究授業の積み上げをレポートし、全員で共有していく。
- ・他校の研究授業に参加された場合は簡単なメモつきで指導案や研究紀要を学習部に提出する。学習でまとめて共有化していく。（指導案は定位置にストックしていく）

〈学習部 研究組織〉

学校研究統括	荒木	補充・基礎学力づくり	福家
研究授業・授業づくり	荒木	教育課程・少人数算数	福家
学習集団づくり	吉田	総合的な学習	荒木
読書	横山		
英語教育	石川	低（吉田）中（石川）高（梅木）	
学力調査実施・分析	梅木	低（横山）中（升田）高（梅木）	

4. 校内研修

研究の重点 ◇教育課程の見直し

◇授業改善

月	個人研修 研究の課題 (個人で設定)	校内研修					
		学校研究		総合的な学習の時間		英語	生徒指導
		全体研究会	分科研究会	学年総合	情報教育		
4	個人の研究課題の設定 ・研修や個人研究の年間計画等の設定 ↓ ・実践研究 ↓ ・研究の内容や方向性の見直し、修正等 ↓ ・実践研究 ↓ ・研究の成果や課題等の検討	○全体研 (研究の骨子提案、研究方針の共通理解)	○分科研	○全体研 (総合の共通理解)	○全体研 PC1、PC2の使い方、デジタル機器の扱い方		○児童理解の会①
5		○全体研究授業①(高) (研究の具体像の共通理解、指導案の形式提)		○学年研 (各学年の単元構成決定)		○全体研 (英語研修会)	○児童理解の会②
6		○全体研究授業②(中)	・研究授業(低)(中)(高)				○児童理解の会③
7			・研究授業(低)(中)(高) ○分科研 (前期前半の成果と課				○児童理解の会④
8		○全体研 (算数科の指導法)		○学年研 (計画の再検討、見直	○全体研 (ホームページ作成)		
9			○分科研(9月からの重点)				○児童理解の会⑤
10		○全体研究授業③(低)	・研究授業(低)(中)(高) ○分科研 (前期の成果と課題) (後期の重点的取り組み			○6年授業の参観	○児童理解の会⑥
11			・研究授業(低)(中)(高)				○児童理解の会⑦
12		・研究紀要提案	○分科研 (後期前半の成果と課				○児童理解の会⑧
1			○分科研				
2		○全体研 (本年度の研究の成果と課題の考察)					○児童理解の会⑨
3		○全体研 (来年度の研究の方向)		○学年研 (本年度の成果と課題)	○学年研 (本年度の成果と課題)	○学年研 (本年度の成果と課題)	○児童理解の会⑩